

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	倉持裕彌								
授業の概要	<p>キーワード： 中心市街地，商店街，映像制作</p> <p><テーマ> 鳥取の街なかを調査し，映像にする</p> <p><概要> 鳥取市の中心市街地について，歴史や実態を調査し，それらの結果を画像や映像を用いたショートムービーにまとめます。グループごとにテーマ設定・ストーリーの構成・素材の撮影・編集作業等を行います。</p> <p>単に映像作品を作るのではなく，文献調査や現地調査によって，中心市街地の成り立ちや特徴，構造について学習しながら，作品づくりを進めていきます。なお，通行人や店主に対するインタビュー，飲食店の体験レポートは原則禁止します。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では，思考力，判断力，表現力，主体性，多様性，協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは，フィールドにおける自主的なグループ活動が必要です。これまでのプロジェクト研究の経験を十分に活かし，協働性を持ちつつ主体的に行動する模範となることを目指します。また映像の企画制作を通して表現力も高めていきます。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（自己紹介含む） 2. グループ分け，仮動画作成 3. 街歩き・調査テーマ 4. 絵コンテ作成・動画撮影演習・ショート動画上映 5. 調査設計・工程表作成・報告 6. 調査（文献調査） 7. 調査（フィールドワーク） 8. 絵コンテ作成・報告 9. 調査（映像作成開始） 10. 作品の編集作業 11. 作品の編集作業 12. プレゼンテーション1回目 13. 作品の編集作業 14. プレゼンテーション2回目 15. 発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	グループ活動への参加状況，調査および映像作成への協力・貢献等を総合的に評価します。それぞれ目安は50%とするが，メンバー構成などに応じて柔軟に設定します。								
	最終成果物の完成を重視				●	各回，または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学習	グループによっては講義外の時間に街歩き等の活動をすることもあります（グループ内の話し合いで決定する。）								
履修上の注意事項	原則として，3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成				●	他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施				●	他の曜日の集合あり			
教材	<p>◆教科書： 不要</p> <p>◆参考書： 適宜紹介します</p>								

科目名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	齊藤哲								
授業の概要	<p>キーワード： プロジェクトマネジメント、プロセスの見える化、PDCA サイクル</p> <p><テーマ> 鳥取を元気にするイベントをプロデュースする</p> <p><概要> 学生自ら「鳥取を元気にするために開催したいと考えるイベント」を設定し、そのイベントをプロデュースするためにやるべきことを考えます。通常、イベント実施までのプロセスはチームで行うため、見える化が重要です。また、見える化したプロセスは、PDCA(Plan:計画, Do:実行, Check:評価, Action:対策・改善) サイクルを回しながら、成功に近づけていきます。本プロジェクト研究では、このイベントを成功に導くプロジェクトマネジメントの手順を体感します。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、次の3つの能力を特に重要視します。</p> <p>(1)多様性…問題を多面的にとらえる能力 (2)思考力…問題の解決策を考える能力 (3)判断力…問題を解決に導く能力</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (自己紹介、研究の概要など) 2. 研究テーマ(イベント)の立案 3. 研究テーマ(イベント)の計画 4. プロジェクトマネジメントの調査・分析(1)-作業の細分化- 5. プロジェクトマネジメントの調査・分析(2)-作業の細分化- 6. プロジェクトマネジメントの調査・分析(3)-スケジュールの作成- 7. プロジェクトマネジメントの調査・分析(4)-スケジュールの作成- 8. 中間レビュー 9. 研究テーマ(イベント)の詳細化(1) -リスクへの対応- 10. 研究テーマ(イベント)の詳細化(2)-リスクへの対応- 11. 研究テーマ(イベント)の詳細化(3)-収支計画、パンフレット作成- 12. 研究テーマ(イベント)の詳細化(4)-収支計画、パンフレット作成- 13. 発表準備(1) 14. 発表準備(2) 15. 発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視		●	学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容		●	2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	講義・課題に取り組む姿勢、グループへの貢献度、発表内容などを総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視		●	各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習	講義中に学習のヒントとなる課題を出すので、提出すること。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成	●		他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る		●	学内で活動					
	時間割通りの実施	●		他の曜日の集合あり					
教材	<p>◆教科書： 特になし</p> <p>◆参考書： 必要に応じて、紹介します。</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	下境芳典								
授業の概要	<p>キーワード：生活文化、風習、伝承</p> <p><テーマ> 民俗学的観点から考える麒麟地域</p> <p><概要> 歴史の教科書は権力者の移り変わりを中心に記述されていて、その時代に普通に生活していた人々のことはあまり書かれていません。このような庶民の歴史を研究する「民俗学」という学問があります。大学周辺地域の民俗に注目して、教科書には書かれていない歴史をみんなで調査しましょう。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、グループごとに麒麟地域の民俗学的な研究テーマを設定し、現地調査を行い、その結果を発表することで、右記の到達目標の達成を目指します。特に大学生として必要な協働性、多様性の向上を狙いとします。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修確認・初回ガイダンス 2. 受講生の自己紹介 3. 民俗学について大学図書館で調査 4. 個人研究 5. 個人研究の発表 6. グループ分け、グループ研究の準備 7. グループ研究① 8. グループ研究② 9. グループ研究③ 10. グループ研究④ 11. グループ研究⑤ 12. グループ研究⑥ 13. 発表準備① 14. 発表準備② 15. 発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	グループ研究の貢献度等を、学生同士の相互評価も含めて総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学習	学外での情報収集や講義時間外の活動が必要となり得ます。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり				
教材	<p>◆教科書： 使用しません。</p> <p>◆参考書： 適宜紹介します。</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	千代西尾 祐司								
授業の概要	<p>キーワード： PBL, 探求, プロモーション, 映像・音声編集, マネジメント</p> <p><テーマ> プロモーションビデオをつくる</p> <p><概要> 定められたテーマに沿ったプロモーションビデオをグループで作りま す。テーマ設定から情報収集, 整理・分析, 課題設定, アイデア創出, 表現など, 課題 達成までには多くの道のりが有り, それらをグループで解決しながら最終的な作品へ と仕上げます。また, グループのマネジメントは上級生が行います。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では, 思考力, 判断力, 表 現力, 主体性, 多様性, 協働性の6つの能力を身に つけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは, PBL (Project Based Learning) を遂行することを通して, 課題を解決 するための道筋とグループ運営のマネジメントを経 験の中で学ぶことを重視します。映像編集スキル等 を高めるための, 自主演習の部分も多くなります。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション, PBL の概要と進め方, グループ分け 2. 対象選択とプロモーションの方向検討, 仮説設定 3. 情報収集① 4. 情報収集② 5. 整理分析・課題設定・方向性のアイデア出し 6. 画像編集の基礎 7. 音声編集の基礎 8. 絵コンテ作成 9. プロモーションビデオ作成① 10. プロモーションビデオ作成② 11. プロモーションビデオ作成③ 12. プロジェクト研究内での発表, 相互評価 13. 相互評価を受けての修正案作成 14. プロモーションビデオ修正 (最終版完成) 15. 発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	<p>グループ活動への貢献度, 参加状況, 成果物等を総合的に評価します。また, グループの マネジメントも評価対象になります。</p>								
	最終成果物の完成を重視		●		各回, または複数回ごとの成果を重視				
講義外での 学習	PC で映像編集等を行うため, スキルを身につけるための自主演習の時間が多くなるはず です。また, グループ内での自主活動が行われることもあります。								
履修上の 注意事項	<u>原則として, 3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり				
教材	<p>◆教科書:</p> <p>◆参考書:</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟																
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期															
教員名	張漢賢（専任）																							
授業の概要	<p>キーワード： サード・プレイス、居場所、生活環境</p> <p><テーマ> まちの「居場所」を探る</p> <p><概要> 「サード・プレイス（third place）」という概念があります。それは、日常生活に最も長く居る「自宅」（1st place）、「職場」（2nd place）以外の「第三の場所」を指します（磯村 1975、Oldenburg 1989）。このような「居場所」は様々な人やニーズに対応し、色々な形で存在しています。本研究では、まずこの「居場所」の多様なあり方を文献で概観します。まちなかやまわりの生活環境にある様々な「居場所」を探り、ハード（空間）・ソフト（利用実態・運営など）に拘らず、その本質を多角的に考察します。</p>																							
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、入門段階から応用段階への移行期間として、課題に合わせた専門的なアプローチも取り入れるなどして、自分が取り組んでいる問題を他人はどのように取り組んだのかを調査する能力、自分がどのような問題を解決すべきかを見定める能力を身につけます。</p>																							
授業計画	<p>1回目 イン트로ダクション 2回目 文献学習 3回目 文献学習 4回目 研究テーマを考える 5回目 研究テーマを考える 6回目 研究計画を立て、調査を準備する 7回目 フィールド調査と報告 8回目 同上 9回目 同上 10回目 同上 11回目 同上 12回目 同上 13回目 研究成果まとめ 14回目 発表リハーサル 15回目 成果発表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>教員による計画・方針・意向を重視</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td> </tr> <tr> <td>教員と学生の双方向性を重視</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>学生同士の双方向性を重視</td> </tr> <tr> <td>個人による単独活動を許容</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>2人以上のグループ活動が必須</td> </tr> </table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	<p>学習の態度、グループに対する貢献、各段階の達成度、研究成果で評価します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>最終成果物の完成を重視</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td> </tr> </table>									最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学習	<p>まちの「居場所」は色々なかたちで存在している。同じ場所であっても人によって求め方が異なり、存在意義が異なる。何故それが「居場所」・「サード・プレイス」になり得るかを考えてみましょう。</p>																							
履修上の注意事項	<p><u>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>他にも何らかの成果物を作成</td> </tr> <tr> <td>学外フィールドに出る</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>学内で活動</td> </tr> <tr> <td>時間割通りの実施</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>他の曜日の集合あり</td> </tr> </table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり																				
教材	<p>◆教科書： なし ◆参考書： 日本建築学会編、「まちの居場所—まちの居場所をみつける／つくる」、東洋書店、2010。他</p>																							

科目名	プロジェクト研究 4							テーマ カテゴリ	麒麟		
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	中治弘行										
授業の概要	<p>キーワード：PC、ICT</p> <p><テーマ> 教材用ノート PC の活用 ～使ったことのない機能の発見～</p> <p><概要> コンピューターでできることはコンピューターにやらせることができるようになります。</p>										
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、多様性、表現力、主体性を特に重視します。</p>										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンスなど 情報リテラシで学習した利用方法の復習(1) 情報リテラシで学習した利用方法の復習(2) 情報リテラシでの課題に再挑戦(1) 情報リテラシでの課題に再挑戦(2) 情報リテラシでの課題に再挑戦(3) インストールされているソフトウェアを知る 未知のソフトウェアの使い方を学ぶ(1) 未知のソフトウェアの使い方を学ぶ(2) 未知のソフトウェアの使い方を学ぶ(3) 複数の方法で課題を実現する(1) 複数の方法で課題を実現する(2) 発表資料を PowerPoint で作成する 発表資料を PowerPoint 以外の何かで作成する 14回目に作成した資料で発表する 										
	教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視						
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視						
	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須						
評価方法	<p>取り組み状況と成果物を総合的に評価します。</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>									●	各回、または複数回ごとの成果を重視
講義外での学習	<p>自学自習が重要ですが、困りごととはひとりで抱え込まないようにしましょう。</p>										
履修上の注意事項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p>										
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成						
	学外フィールドに出る		●		学内で活動						
	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり						
教材	<p>◆教科書： 特に指定しない。</p> <p>◆参考書： 特に指定しない。必要なものを見つけてください。</p>										

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟		
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期	
教員名	山口 創									
授業の概要	<p>キーワード： 考現学、フィールド調査（観察）</p> <p><テーマ> 考現学～観察を通して社会を読み解く～</p> <p><概要> 考現学とは、昭和初期に今和次郎らが提唱した学問で、一見すると取るに足らないような人々の行動、物事などの観察、データ収集を通して世俗、風俗の考察を試みるものです。今らは、街ゆく人々の服装、女性の髪型、露天商の人寄せ方法などの調査から、昭和初期の東京の生活や風俗を描き出しました。本プロジェクト研究では、実際に人々や物事の観察、データ収集に取り組み、人々の暮らしや鳥取という土地について考えてみたいと思います。</p>									
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。プロジェクト研究4では、テーマ設定、調査方法の決定、フィールド調査、結果のとりまとめ、考察という社会調査の基礎的なプロセスを経験することにより、特に思考力や表現力を養うことを目的とします。</p>									
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 予備調査、グループ分け 3. テーマ設定 4. テーマ設定 5. 調査方法の検討 6. 調査方法の検討 7. フィールド調査 8. フィールド調査 9. フィールド調査 10. 結果のとりまとめ、考察 11. 結果のとりまとめ、考察 12. 結果のとりまとめ、考察 13. 発表準備 14. 発表準備 15. 発表会 									
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視					
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須					
評価方法	最終成果物 50%、授業の取組状況 50%で評価します。									
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視					
講義外での学習										
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。									
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る			●	学内で活動					
	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり					
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書： 考現学入門（ちくま書房）、路上観察学入門（ちくま書房）</p>									

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期
教員名	吉永郁生								
授業の概要	<p>キーワード： 地方創生、生活空間、価値観</p> <p><テーマ> 「〇〇王国、鳥取」を構想する</p> <p><概要>鳥取市を含む麒麟地域では、人口減少による地域社会の崩壊が危惧されています。一方で、人々の価値観も多様化し、この地方での生活を望む人々も一定数存在しているように思われます。麒麟地域を定住空間とするうえで、どのような価値を優先するかを考え、その価値を「〇〇王国」というスローガンに落とし込み、提唱します。そのために、この地域の独自性、他地域との比較優位・劣位を探るところから始めます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、個人活動とグループ活動の両方があります。構想した鳥取の将来構想を具現化するために、他者を納得させ、支持してもらわなければなりません。そのために、ディスカッションを通じて、多様性を認め合い、協働的に作業できる力が必要です。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと背景の説明 2. 個人研究計画 1_研究計画発表 3. 個人発表 4. 個人発表 5. 個人発表 6. 個人発表 7. グループ研究計画 1 8. グループ研究計画 2_研究計画発表 9. 研究実施 10. 研究実施 11. 研究実施_中間発表 12. 研究実施 13. 研究実施 14. 発表準備 15. 予備日 15. 発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	個人の発表内容とグループ研究の発表内容、およびそれに関連した討論で評価します。								
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学習	場合によっては、講義外、学外での活動があります。また、同一日に4限・5限を通して実施することもあります。事前に皆さんと相談します。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり				
教材	<p>◆教科書：</p> <p>◆参考書：</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	麒麟	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	連 宜萍 (専任)								
授業の概要	<p>キーワード： 国際化、異文化、国際交流</p> <p><テーマ> まちなかの国際化を調べよう</p> <p><概要> 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）は国境を越えて移動しています。我々は海外に行かなくても、常に外国の商品を買って使って、外国の情報を得て、外国語の案内表示を見て、外国人と触れ合うチャンスがあります。本プロジェクトでは、まず町中や周りの国際化の現状を見て調べます。今後ますます国際化が進むなかで、日本はどう変わるか、どう対応すべきかなどを調査し明らかにします。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトではまちなかの国際化についての現状を考察したうえで、ブレインストーミングとKJ法を用いて自ら研究課題を設定します。まちなかの国際化の問題はどうやって解決するかを提案するために、グループメンバーと議論することを通じて情報収集、調査計画、実施方法等を学習します。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ブレインストーミング、研究テーマを決め、チームを分けます 3. 国際化の現状を把握します 4. 調査の質問票を作成し、調査計画を立てます 5. フィールド調査の準備・計画について報告します 6. 調査の実施 7. 調査結果の報告、ディスカッション 8. 調査の実施 9. 調査結果の報告、ディスカッション 10. 調査の実施 11. 調査結果の報告、ディスカッション 12. 研究成果まとめ 13. 研究成果まとめ 14. 成果物のアップロード、発表リハーサル 15. 公開発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	<p>グループディスカッションへの参加、プロジェクトへの貢献（とりわけ他のグループへの貢献的なコメント）、成果物等を総合的に評価します。</p>								
	最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学習	<p>講義時間は主に発表や検討に使うため、グループ議論やフィールド調査、パワーポイントの作成は講義時間外で行うこと。</p>								
履修上の注意事項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p>								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る		●		学内で活動				
	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり				
教材	<p>◆教科書： ◆参考書： 授業中に必要に応じて指定します。</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	岩田 健吾								
授業の概要	<p>キーワード： 都市政策、EV、MaaS、シェアリングサービス</p> <p><テーマ> サステナブル・モビリティについて深く調べよう</p> <p><概要> 「サステナブル・モビリティ」は、SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」および目標 13「気候変動に具体的な対策を」に直結する重要なテーマである。本プロジェクト研究では、サステナブル・モビリティの可能性と課題について多角的に調査する中で、学生が主体的に思考し、視野を広げることを目的とする。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本プロジェクトでは、学生自らが主体的に考えることを重視し、特に表現力を養うことを目的とする。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（自己紹介など） 2. グループにおける研究テーマの選定 3. グループにおける研究計画の策定 4. グループでの研究活動① 5. グループでの研究活動② 6. グループでの研究活動③ 7. グループでの研究活動④ 8. 研究結果の中間発表 9. グループでの研究活動⑤ 10. グループでの研究活動⑥ 11. グループでの研究活動⑦ 12. グループでの研究活動⑧ 13. 発表会に向けた資料作成 14. 発表会に向けた練習 15. 発表会 <p>※上記の計画で進めていく予定であるが、必要に応じて柔軟に変更する可能性がある。</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	<p>ディスカッションやグループ活動への参加意欲（30%）、中間発表（20%）、発表会での最終成果（50%）で評価。</p>								
	最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学習	研究の進捗状況によって、グループの講義外での打ち合わせが必要となる場合がある。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり				
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 必要に応じて適宜示す。</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	SDGs					
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期				
教員名	金 相烈												
授業の概要	<p>キーワード： ごみ調査、一人暮らし、排出抑制</p> <p><テーマ> 私たちの暮らしとごみ</p> <p><概要> 本プロジェクト研究では、私たちの暮らしとごみがいかに密接に関連しているかを理解するために、わたしたちの毎日の暮らしから、どのようなごみが、どれくらい出ているか、また一人暮らしのごみの特徴を調べ、さらにごみ減量のための改善策を工夫し、検証する。</p>												
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、自分の考えているところを相手に的確に伝える力、他の人の意見を引き出し、全体を取りまとめる力、そして、筋道を立てて体系的に考える力を重視します。</p>												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス・自己紹介 各地元におけるごみ処理について調査し、発表する。 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 1 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 2 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 3 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 4 1 か月間の結果をまとめ、発表する 1 (中間発表) 1 か月間の結果をまとめ、発表する 2 (中間発表、班分け) 班ごとに調査および報告 1 班ごとに調査および報告 2 班ごとに調査および報告 3 班ごとに調査および報告 4 これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備 1 (発表練習) これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備 2 (発表練習) 発表会 												
	教員による計画・方針・意向を重視	●				学生の自発的な計画・方針・意向を重視							
	教員と学生の双方向性を重視		●			学生同士の双方向性を重視							
	個人による単独活動を許容	●				2人以上のグループ活動が必須							
評価方法	<p>チーム力 (2割)、コミュニケーション (2割)、プレゼン力 (2割)、寄与度 (1割)、発表成果物 (3割)</p> <p>最終成果物の完成を重視</p>									●			各回、または複数回ごとの成果を重視
講義外での学習	<p>廃棄物の発生量等の統計調査と、自分の地元の (市町村等) のごみ処理管理・政策の実態を事前に調査すること。</p>												
履修上の注意事項	<p>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</p>												
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●				他にも何らかの成果物を作成							
	学外フィールドに出る			●		学内で活動							
	時間割通りの実施	●				他の曜日の集合あり							
教材	<p>◆教科書： ◆参考書：</p>												

科目名	プロジェクト研究4							テーマ カテゴリ	SDGs		
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期		
教員名	甲田 紫乃										
授業の概要	キーワード： エネルギーコミュニケーション、エネルギー自立、持続可能な社会										
	<テーマ> エネルギー自立と持続可能な社会 <概要> エネルギーコミュニケーション（エネルギー科学の一領域）及びグループ・ダイナミクス（社会心理学の一領域）の学際的観点から、エネルギー自立と持続可能な社会について多角的な分析・考察を行う。本プロジェクト研究4では、特に「 <u>考えること</u> 」「 <u>判断すること</u> 」「 <u>協働すること</u> 」に焦点をあて、エネルギー科学に特徴的な学際的視野を用いて、各自の知見・見識を深化させる。 ※本プロジェクト研究では適宜映像資料も用いる予定である。中間報告会および最終報告会では、各グループがもう一方のグループの発表を聞き、質疑応答、意見交換を行うというものであるが、これも「エネルギーコミュニケーション」の一種であり、発表会もエネルギーコミュニケーションの一種である。										
到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とする。本プロジェクトでは、この6つの能力を身につける過程で、以下の3点、すなわち、 ・各発電方法の違いを、具体的な数値、計算式などを用いて、分かりやすく説明することができる。 ・エネルギーミックス、エネルギー自立と持続可能な社会について、事例を用いて分かりやすく説明することができる。 ・知りたい情報を学術図書、学術論文、統計データから見つけ出し、分析することができる。 この3点を身につけることを目標とする。										
授業計画	1. イントロダクション①：グループ・ダイナミクス、エネルギーコミュニケーション 2. イントロダクション②：代表的な発電方式の概要、エネルギー自立 3. イントロダクション③：学術論文の読み方・プレゼンの仕方などの基礎 4. 調査（1） 5. 調査（2） 6. 調査（3） 7. 調査（4） 8. 中間報告会及びディスカッション 9. 調査（5） 10. 調査（6） 11. 調査（7） 12. 調査（8） 13. 最終報告会及びディスカッション、発表準備 14. 発表練習 15. 発表会 ※順番等は変更になる可能性がある。										
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視						
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視					
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	各回の取り組み状況（40%）、報告会（30%）、発表会（30%） 最終成果物の完成を重視										
講義外での学習	特になし。										
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。										
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成						
	学外フィールドに出る				●	学内で活動					
	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり						
教材	◆教科書： 特になし。 ◆参考書： 適宜紹介する。										

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	SDGs	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	高井亨								
授業の概要	キーワード： 自由の意味、研究、SDGs と SDGs ではないもの								
	<p><テーマ> 大学生の自由研究</p> <p><概要> 自らテーマを設定し、研究を遂行します。テーマは自由に選んで構いませんが、ひとつだけ制約があります。各自が選んだテーマが、どのように SDGs と関係するのか（しないのか）、つまり SDGs という視点から考察をおこなってください。みなさんが関心のあるテーマと SDGs それぞれについて深く理解することが求められます。とはいえ、<u>楽しみながら探求できるテーマを見つけ、取り組むことが一番大事です。</u>そして、可能ならば、卒業研究につながるような研究テーマを見いだせるとよいでしょう。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、どの能力もまんべんなく必要です。しいていえば「主体性」を身につけることを目標とします。</p> <p>また、プロ研 4 の履修生は、プロ研 2 の履修生の良い手本となることも重要であるため、リーダーシップを磨くことも求められます。</p>								
授業計画	<p>1：イントロダクション（自己紹介など）</p> <p>2：研究テーマの探索</p> <p>3：各自の研究テーマの発表</p> <p>4：研究テーマの練り直し</p> <p>5：先行研究の調査</p> <p>6：先行研究の調査</p> <p>7：調査・分析</p> <p>8：調査・分析</p> <p>9：中間発表会</p> <p>10：調査・分析</p> <p>11：調査・分析</p> <p>12：成果物づくり</p> <p>13：成果物づくり</p> <p>14：プロ研内での発表会</p> <p>15：プロ研発表会</p>								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	意欲（20%）・態度（20%）・成果（60%）の割合で評価する。								
	最終成果物の完成を重視					●	各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学習	意義のある成果を得るためには、講義時間外にも研究をすすめることが必須です。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成					●	他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施					●	他の曜日の集合あり		
教材	<p>◆教科書： 適宜紹介する。</p> <p>◆参考書： 適宜紹介する。</p>								

科目名	プロジェクト研究 4						テーマ カテゴリ	SDGS	
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教員名	谷口 晴香								
授業の概要	<p>キーワード： 人と動物の関係、アニマルウェルフェア、環境エンリッチメント</p> <p><テーマ> 公立鳥取環境大学のヤギをテーマに人と動物の共生のかたちを考えよう</p> <p><概要> 本プロジェクトでは、公立鳥取環境大学のシンボルの1つであるヤギをテーマに、人と動物（例. 家畜、ペット）のよりよい共生のかたちを考えます。近年、アニマルウェルフェア（AW）の改善がSDGsの目標達成にも貢献することが指摘されています。AWの改善として「5つの自由と対策」モデルが提案されており、そのうちの1つに「正常行動発現の自由」というものがあります。動物の習性に配慮しつつ動物を適正に扱うことは、AWの向上につながります。この視点で、本学のヤギを対象に動物行動学的手法などを用いつつAWを考えます。</p>								
到達目標	<p>プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。</p> <p>本プロジェクトでは、本学のヤギに着目しプロジェクトを立ち上げ、行動観察などの手法を用い、「人と動物が共生する上での問題点とその解決方法はなにか」をメンバーと協働し模索し、率先し意見をまとめていく能力を養います。</p>								
授業計画	<p>下記の講義計画で進めていく予定であるが、必要に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 各自の研究テーマの発表 3. グループ分け、テーマ決め 4. グループにおけるテーマの発表・練り直し 5. 調査準備・調査 6. 調査・分析 7. 調査・分析 8. 調査・分析 9. 調査・分析 10. 調査・分析 11. 成果物づくり 12. 成果物づくり 13. プロ研内での発表会・議論 14. 成果物づくり 15. 発表会 								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生	の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生	同士	の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容			●	2人以上	のグループ活動が必須			
評価方法	個人研究の発表内容（20%）、グループ研究の発表内容（40%）、授業の取り組み状況（40%）により評価する。								
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回	ごとの成果を重視			
講義外での学習	グループごとの研究スケジュールによる								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも	何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る			●	学内	で活動			
	時間割通りの実施			●	他	の曜日の集合あり			
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： 授業のなかで適宜紹介します</p>								

